

第 416 回 静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 7 年 11 月 4 日 (火) 11:00~13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取講評 [番組名] シャンソン姉さんのハナタにハリガトネ～
[放送日時] 令和 7 年 9 月 11 日 / 10 月 30 日 (木) 20:30~21:00
4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 副委員長 角田哲康
委員 服部乃利子 委員 加藤裕治
委員 小野晃司 委員 土屋維子
(6 委員 / 6 委員)
[会社] 代表取締役社長 井熊正浩
取締役放送事業本部長兼編成制作部長 杉山啓充
編成制作部シニアマネージャー 鈴木秀明

5. 事務局報告 ○ 静岡県内企業のトレンドについて
6. 番組審議
[番組名] シャンソン姉さんのハナタにハリガトネ～
[放送日時] 令和 7 年 9 月 11 日 / 10 月 30 日 (木) 20:30~21:00
[出演者] シャンソン姉さん
[番組内容] シャンソンを歌ったり歌わなかつたりする姉さん…
シャンソン姉さんの独特なトークが展開する 30 分。
一度聞いたらクセになっちゃう木曜夜の
レギュラープログラム。

[聴取・合評での主な意見]

服部委員 2 本の試聴のうち 1 本目の公開録音は、通常番組よりもテンション高く感じたが、2 本目の通常番組でも独特の語尾が活きていて、一度聴くとクセになる声と間に、耳が勝手に吸い込まれた。コーナーをあまり多くせず、「どうにかハリガトネ」とシャンソンの曲を紹介する「シャンソンショー」程度にして、メッセージに対するトークを展開して行けば良いのではないか。アニー(相槌担当の構成作家で実の兄)との会話では、素の部分を出すよりも『シャンソン姉さん』というキャラクターが立つ語りに徹した方が良いと思う。個人的には、シャンソン姉さんというパーソナリティに魅力を感じている。

土屋委員

今年最初に審議したレギュラー前の番組の時よりも、キャラクターが濃くなってきており、テンションも高くなっていると思う。このこと自体は、全く悪くないのだが、番組初期に比べて、今回は、アニイとのトークの絡みが多い印象を受けた。番組的にはコーナーは一切なしで、シャンソン姉さんの、ひととなり、考え方、いろいろな事象にどういう価値観を持っていて語ってくれるのかを出して行くことで、十分なのかもしれないと思う。そういう意味でも、2人トークの部分はもう少し短くして、楽しいトークに深いトークが加わると番組に厚みが増すと思われる。

小野委員

シャンソン姉さんの良さは、“シャンソン姉さん”というキャラクターの面白さだけでなく、人生の深みや自分自身の意見を持っていることを感じさせる素の部分だと思う。通常のラジオ番組は、皆、番組内で何かしらの意味を持たせる方向だが、この番組は、意味のないものに付加価値をつける痛快さがあり、それを支えているのがシャンソン姉さんなので、どういう時も変わらない芸人の“シャンソン姉さん”と人生の深みを感じさせるパーソナリティシャンソン姉さんの両方を活かすことが良いと思う。

加藤委員

シャンソン姉さんが一人で聴取者に向けてトークしているパートは、その言葉がとてもよく心に響く。その魅力は“毒のある前向きトーク”というようなもので、トークに、スパイスが効いているのにとても正攻法であるために誰も傷つかない。このトークを活かすために、あまり、笑いや面白くしようという気持ちを強く持ちすぎないという方向性があっても良いのではないか。アニイとのトークパートも全体の1コーナー位に留めることがあっても良いと思われる。

角田委員

シャンソン姉さんのキャラクターがとてもよく立ち始めていて本人の自信も感じられる。また、声も、良き前に向かって出ていると思う。そのために、トークの深みの部分がまだまだ出てきていないところが感じ取れる。この点は少し残念である。パーソナリティとして稀有な存在でもあるので、シャンソン姉さん自身のトークをしっかりと確立する方向を持つと良いと思う。
シャンソンに対する知識も含めて、少し深く掘り下げるト、トーク力も上がり、キャラクターも番組も良くなるのではないだろうか。

木宮委員長

シャンソン姉さんの声の大きさはとても聴きやすい。アニイも番組に慣れていて、トークがうまくなってきているが、そのために、少し登場箇所が多くなっているとも思われる。12歳の聴取者のメッセージも取り上げられていたが、もうちょっと、トークに深みが欲しいところではある。若い世代にファンが増えてきているが、いわゆる子供番組のスターとなるのか、大人向けでも対応できる番組とするのかで、制作の方向も変わると思われる所以、いろいろな可能性が見えている今を大切にして、方向性を考えると良い。

会社サイド

9月に行われた公開録音には、お子様と一緒に参加した聴取者も見受けられ、ファン層の幅の広さを感じました。様々なご意見をいただき、この番組の今後の可能性の大きさを感じることができました。1つの番組で同時に複数の演出をすることはできないので、今行っていることが最も良い選択であると思い、番組を進めて行きたいと思います。
ある程度の期間を経て、また審議していただく機会を作らせていただきます。

以上

次回開催日 令和8年1月6日(火) 16:00~18:00を予定

番組審議会委員長

木 宮 敬 信